

b b c カンパニー流オリジナルお掃除レシピ

もう失敗しない

フローリングワックス掛け指南書

b b c カンパニー 代表

信岡政憲

いきなりですがみなさん、ワックスの弱点を知ってますか？

ズバリ！【湿気と低温】です

水に弱く、気温にも左右されます。

【湿気】

湿気が多いとワックスは乾きませんし、十分な皮膜形成の妨げになります。簡単に言えば耐久力が得られない皮膜になってしまうということです。

【気温】

これも皮膜形成の妨げになるのですが、上記の湿気よりもまだひどい状態となります。例えば、床との密着不良を起こし、ワックスが粉状に分解していくこともあります。基本的には5℃以下の状況では塗らないように注意してください。

この弱点を考慮した上で、ワックスを塗るのに最適な日はいつかというと

“湿度が低く良く晴れた日です”

季節的には春と秋の気候がワックス掛けには最適な日和です。

夏場は気温が高く塗った端から乾いていきますので、カスレ跡の失敗が起きやすいのでテクニックによっては失敗することがあります。

冬の大掃除時期はあまりお勧めできないのが本当のところですが。もし冬場にするのであれば暖房をガンガンにして行うといいでしょう。但し、窓際は結露で湿っていることがあるのでワックスを塗る前に確認を忘れずに。

裏技

気温が低い時期は、ワックス自体を容器ごとストーブや温風に当てて少し暖めておくと、塗りやすく(よく伸びて均一になる)乾燥もよく、仕上がりも良くなります。

では、実践編と移っていきます。

手順1 準備

(道具の準備) 掃除機、バケツ、洗剤、スポンジ(ザラザラの物)、タオル、ワックス、ワックスを塗るモップ、相方(夫、妻)

出来れば2人でやりましょう。特に家具の移動などがある場合は一人では出来ないこともありますからね。

(作業スペースの確保)

ワックスを塗る区域を決めたら、家具等を移動する。

必要な箇所には養生も行います。(水にぬれてはいけない場所など)

掃除機で床面のホコリ・ゴミを取り除く。

<ポイント>

ホコリを取る時に、床面だけでなく、ついでに巾木や備品の足回り、その他高所部のほこりも取っておきます。ワックスを塗る時に、残っているホコリと一緒に付着してしまうことがよくありますので。特に隅っこやコーナー付近は砂ぼこりが溜まりやすいので入念にしておきましょう。

手順2 洗剤拭きで汚れ取り(特に油分はしっかりっと!)、十分に水ぶきしてからよく乾燥させる。

<ポイント>

しっかり汚れを落とさずにワックスを塗ってしまうと。。。

恥の上塗り状態になります。

特にキッチン周りは油汚れが付着しています。表面を雑巾で拭いただけでは取れないこともあります。

マイペットなどで洗淨水を作りそれを床に塗って5分程度放置し、汚れを浮かしましょう。

そして、ザラザラのスポンジでワックスを汚れと一緒に削り取るように擦ってください。


ただし、ワックス皮膜全部を根こそぎ下地まで削るわけではありません。あくまでも表層です。

一通りこの擦る作業が終わると、どっぶり疲労が押し寄せてくると思いますがここで休憩はしないで下さいね 次の大事な作業が終わってから休憩です。

<ポイント>

汚水はしっかり拭き取って、さらに水拭きを行ってください。汚水の拭き取りが不十分だったり、洗剤分が残っている状態で、その上からワックスを塗ってしまわないように。

手順3 ワックスを原液のまま、きれいな布やモップでムラなく均一に塗布する。


 <ポイント>

ワックス塗りを始めたら『集中』して下さい


× 塗っている途中によそ見をしない 塗り残しやムラの原因に！

× 塗っている途中は携帯が鳴っても出ない 途中で中断したら中途半端な境目が出る原因に！

× 子供は絶対立ち入り禁止(もちろんペットも) 半乾きでの歩行による足跡！


 <ポイント>

どのような流れで塗っていくか頭の中で『シュミレーション』してください。くれぐれも行き止まりにならないように塗っていくルートをしっかり決めましょう。

 <ポイント>

塗り広げた時に乳白色の色が残る(真っ白に見える)のは塗りすぎです。

塗っていくコツは例えば6畳の部屋を塗る場合、2畳分づつ3工程で塗り広げていけば、無理なく焦らずスムーズに出来ると思います。

 <ポイント>

塗る際は、モップを少し抑え気味に力を加えてやると均一に塗れますし、かすれもありません。また、同じ場所は何回もこすらないようにしましょう！塗りムラやカスレ跡の原因となります。特に半乾きの状態で、塗りなおしをするとスジ状になってしまいます。

手順4 塗布後ワックスを十分に乾燥させる。

☑<ポイント>

塗布後から乾燥までの間は、ワックスの上を歩いたりモップなどでこすったりしないで下さい。手の甲で軽く触ってみて、表面がサラッとした状態であれば大丈夫です。

☑<ポイント>

乾燥時間は、気温や湿度によって多少差がありますが、大体自然乾燥で30分程度。湿気が多く、気温が低い冬場だと1時間経っても乾かない事がありますので、出来るだけ部屋を暖めてからワックスを塗るようにしてくださいね。

時間に余裕があれば更にもう1回塗り重ねると効果が長持ちします。その場合は、1回目のワックスが完全に乾燥した後で行うこと。

手順5 片付け

☑<ポイント>

ワックスに使用した布やモップ類は、すぐに水洗いをして、よく乾燥してください。ワックス分がモップに残っているとカチカチに固まって使えなくなってしまいます。

注意

ワックスを塗って数十分から1時間もすれば乾いて歩行することが可能になりますが、実は内部のワックス皮膜は完全には硬化していません。一般的に完全に内部まで硬化するまでには、1週間かかると言われています。

ですからワックスを塗った日及びその翌日などはワックスがデリケートな状態ですので、水をこぼすとその部分がつや消しのようになったり、白っぽく変色することがありますのでご注意ください。

図解によるワックスと汚れの関係を当社サイト内で分かりやすく掲載していますので、
そちらもご参考頂ければより一層イメージが出来ると思います。

このレポートを最後までお読み頂き感謝です。

ご健闘お祈りしております。